

2007年 年頭のご挨拶

2007年1月19日

日本ボンド磁性材料協会
会長 芳賀 美次

会員の皆様、明けましておめでとうございます。日頃より協会に対して数々のご支援・ご協力を賜り、この場をお借りし厚くお礼申し上げます。また、1月19日の「新年賀詞交歓会、記念講演会」には、ご多忙のところ約70名の方々にご参加いただき有り難うございました。記念講演会は、本年度で3回目になりますが、今回は現在フェライト磁性材料で世界一の企業である、中国浙江省東陽市横店にある横店集団東磁有限公司の社長、何時金(KeShiJin)先生にご講演をいただきました。急速な規模の拡大、強い実行力、弛まぬ向上心などに強い感銘を受けた方も多いいことと思います。有り難うございました。

さて、年頭にあたり、一言協会の活動状況と当協会が集計致しました、2006年度のボンド磁石の生産高の概略をご報告致します。

当協会は、昨年6月に協会名を「日本ボンド磁石工業協会」から「日本ボンド磁性材料協会」に改名し、従来のボンド硬質磁性材料に加えて、ボンド軟質磁性材料を含めた協会にさせていただきました。両者は、生産設備や測定機器、市場に多くの共通点があります。双方の情報をお互いが共有することによって、新しい製品が種々誕生するのではないかと期待しております。

既に、ボンド硬質磁性材料とボンド軟質磁性材料を組み合わせた、高効率の送風機用ブラシレスモータが三菱電機(株)において開発されております。また、電子機器をみますと「高周波化と低電圧が加速」されてきております。高周波領域に入りますと、ご存知のようにボンド軟質磁性材料が優れた特性を発揮するため、ボンド軟質磁性関連の応用製品が拡大すると期待できます。さらに携帯電話など高密度電子機器においては、内部の誤作動防止を目的に「ノイズ抑制シート」が使用され、既に年間60億円の市場を形成しているとのことであります。

当協会は、昨年12月から軟質磁性材料関連の会員募集を始めております。新しい会員と現会員と共に、今後の高性能な「高周波・高密度電子機器」の発展に微力ながら貢献して参りたいと考えております。

昨年2006年度の当協会の活動を振り返ってみたいと思います。講演会は、ボンド磁性材料に関連する世界の最新情報をいち早く会員にご紹介することを心がけておりますが、昨年は伊田技術委員長を中心に、年2回の技術例会と1回の国際シンポジウムを開催しました。技術例会は5月19日の「進化する複合磁性材のプロセス技術（成形方法及び金型の最新動向）」（95名参加）、9月6日の「電波吸収体と関連技術の最新動向」（121名参加）であり、12月8日には、2006BMシンポジウム「ボンド磁性材料とその応用の世界動向」（200名参加）を開催し、参加者からも高い評価を得ました。

協会誌の「BM News」は、多田機関誌編集委員長を中心に年2回発行しております。年々内容が充実してきており、ボンド磁性材料関連の唯一のまとまった参考資料になっております。

また、当協会の事業活動の一つとして、世界のボンド磁石の生産量を毎年集計しております。12月7日には、伊藤企画委員長が中心になり「世界生産統計討論会」を実施し、生産量・生産高や技術動向などを討論しました。ボンド磁性材料に関するこの種の統計は他になく唯一のものでありますが、後程概略をご報告します。

次に話が変わりますが、昨年の賀詞交歓会で名誉会員の杉本先生のご挨拶の中で、日本の磁石産業にとって大変な危機が発生していると言われました。それは、中国とかインドのことではなく、大学のカリキュラムから磁石の講座が消えてしまったということでした。これに端を発して、協会でもボンド磁性材料に関する基礎的な勉強会を行うことになって、「寺子屋BM塾」という名称で、5月頃から開講を計画しております。大勢の若い方々のご参加を期待しております。

さて、2006年度のボンド磁石の生産概略をご報告します。まだ最終結果ではありませんが、協会としての公式発表は海外も含め3月頃になる予定です。

2006年の日本国内における生産は、重量では12,120トンで前年比94%、金額では216億円で前年比103%の見込みであります。これに2001年頃から始まった中国やタイなどにおける日系企業海外生産の355億円（前年比112%）を含めると、合計571億円になり前年比108%になります。

もう少し個別のボンド磁石について日本国内の状況をご説明します。

1. フレキシブルボンド磁石

2006年のフレキシブルボンド磁石は、昨年同様減少傾向が続いております。映像・音響分野では、生産拠点が海外に移行し、製品価格の値下がり金額に影響しているものと思われま。回転分野では、中国メーカーの台頭により、昨年に比較して重量・金額とも減少しました。OA・プリンタ分野では、リジッドへの切り替えは一段落のように見えてましたが、重量・金額とも減少しました。しかしながら、家電・吸着・雑貨分野では、海外製品と競争しながら昨年と比較し重量が増加しました。これらの結果フレキシブルボンド磁石全体では、重量が4030トンで前年比88%、金額は31億円で前年比95%と推定されます。日系の国内と海外を合計しますと、46億円で前年比75%になります。

2. リジッドボンド磁石

2006年のリジッドボンド磁石は、映像・音響機器関連を除く全ての分野で重量・金額とも昨年より増加しました。磁気ロールは、小径化にもかかわらず、数量が増えて、重量が微増し、金額が増加しました。吸着・雑貨関連は、重量が昨年に比較し、可成り大きく増加しました。

リジッドボンド磁石全体では、重量が7640トンで前年比98%、金額が113億円で103%の伸びになり、日系海外を含めると193億円で前年比97%になりました。

3. 希土類ボンド磁石

2006年の希土類ボンド磁石は、家電、自動車、吸着雑貨分野では重量が増加しましたが、その他の分野では昨を下回りました。磁石粉末の値上がりにともない、製品価格が値上がりし、金額は増加しましたが、希土類全体としては重量が減少しました。自動車分野でのモータ・センサーは、形状が小さくなり用途が拡大したため、数量が順調に伸び、重量・金額とも増加しました。回転分野での振動モータも同様に小さくなり、数量も伸長しました。

希土類ボンド磁石全体では、重量が450トンで前年比85%、金額は、72億円で前年比106%になります。国内と日系海外の生産金額は、332億円、前年比125%になりました。

以上で日本関係の報告を終わりますが、3月の協会発表の際には、海外の国、地域ごとのデータも出ますので、ご覧いただきたいと思います。

最後になりますが、今年2007年の新年は、シュンペーター氏が提唱しました「イノベーション／技術革新」という言葉が新聞、テレビ、雑誌などに多く見られました。世界が大

きく変化する中で、「日本もこうしてはおれない」という強い危機感と「また力強く前進しよう」という意志を表したものと思います。 2007年は皆様の目標や抱負が叶えられ、前進する良い年になることを祈念して、挨拶にかえさせていただきます。有り難うございました。

以上